



消防大学校だより

■ 予防科における教育訓練

消防大学校では、専科教育において、予防業務の指導的立場にある職員を対象として、予防業務に関する高度な知識及び技術を専門的に修得させ、予防業務の教育指導者等としての資質を向上させることを目的に「予防科」を設置しています。

予防科は、年度内に2回実施しており、今年度1回目となる第118期は、令和7年6月4日から7月23日までの日程で実施し、全国の消防本部等から集まった30名全員が無事卒業しました。

本課程では、消防庁の審議官による講話や予防課長による予防行政の動向のほか、消防本部のみならず多方面から講師をお迎えし、関係法令や違反処理をはじめ、幹部教養についてご講義いただきました。

その中で今回新たなものとして、消防庁予防業務優良事例表彰を受けた消防本部から、ICTを活用したオンライン検査の手法や、RPAによる許認可事務作業の効率化について紹介いただいたほか、警察庁指定広域技能指導官から、関係者に対して適切な指導をする上で必要な交渉術についての講義を取り入れました。このような、法令等の知識や予防実務の講義だけでなく、幹部として必要な知識・技術の修得のための講義は、消防大学校の特色の一つです。

課題研究では、学生が職場で抱えている身近な課題や全国的な課題をテーマとして、アンケート等により収集した事実や新しい発想に基づいて、将来あるべき予防行政について検討を重ねました。発表の際は消防庁予防課から講評者を迎え、各班とも練り上げられた研究成果の発表を行い、その後の発表内容への活発な意見交換につながりました。

昨年度から採用している企画違反処理実習においては、学生自身で違反処理に関する実習を企画し、運営することで、学生が消防大学校で得た知識・技術の定着を図ることや、指導力の向上を目的としています。指導的な立場を経験することで、新たな気づきが生まれたと学生から好評を得ております。実習では、昨年度の予防科の卒業生や全国違反是正支援アドバイザーをお迎えし、学生が考えた企画に助言をいただけたことで、教育効果

をさらに高めることができたと考えております。

学生からは入校当初の目標を達成することができ、大変有意義であったとの感想が多く寄せられ、実施する側も大変励みとなりました。同じ目標を持つ仲間が全国から集い、入校期間中に様々な意見を交わすことができたことは、大変貴重な経験であったと思います。

今後は、消防大学校で修得した知識・技術とともに、入寮生活を通して培った30人の仲間とのさらなる切磋琢磨を通してそれぞれの所属で日々の業務に活かしていただき、地域の安心・安全のために一層ご活躍されることを心から願っております。



入校時集合写真



企画違反処理実習の様子



消防大学校だより

火災調査科における教育訓練 ～模擬家屋実習について～

消防大学校では、専科教育において、火災調査業務に関する高度な知識及び技術を専門的に修得させ、火災調査業務の教育指導者等としての資質を向上させることを目的に「火災調査科」を設置しています。

令和2年度以来新型コロナウイルス感染拡大の影響で定員を30名に縮小していましたが、今年度1回目となる第48期からは従来の48名に戻し、令和7年5月22日から7月9日までの期間で実施され、48名全員が無事に卒業しました。

年間2回実施している火災調査科では、全国の消防本部において火災調査の指導的立場にある職員が、更なる資質向上を目的として約2ヶ月にわたる教育訓練に励んでおり、座学（講義）のほか、実際に車両を燃やして見分要領を学ぶ「車両鑑識実習」など様々な実習を行いますが、ここでは本課程を総括する実務型の教育訓練である模擬家屋実習について紹介します。

【模擬家屋調査実習の概要】

模擬家屋調査実習は、約10㎡の建物を4棟仕立て、内装や家財等を実際の家屋と同様に設定し、それぞれ異なる原因で木造家屋に火災を発生させ、実際の現場に即した形で火災調査を行い、現場における調査技術の向上を図るものです。

各棟とも、現場調査終了後、出火箇所付近から取去した石油ストーブ等の鑑識を実施したほか、再現実験を行うなど、科学的かつ客観的な火災調査の実践に努めました。

【模擬家屋調査実習での取組】

学生が主体となり、それぞれの任務分担（調査責任者・主任調査員・発掘者・写真撮影者・図面作成者）に基づき、火災現場の指揮要領から消火、現場発掘、鑑識、再現実験及び関係者への原因説明要領までを実施し、その上で、学生一人ひとりが火災調査書類を作成しました。

研修の最後には、火災調査発表会を実施し、指導者としての説明能力（プレゼン能力）の向上を図るとともに、活発な意見交換を経て、更なる知見を得ることができました。

卒業した学生からは「入校当初の目標を達成することができ、大変有意義であった。」との感想が多く寄せられました。同じ目標を持つ仲間が全国から集い、入校期間中を通して様々な意見を交わすことができたことは、大変貴重な経験であったと思います。

今後は、各学生が消防大学校火災調査科の卒業生としての誇りと自信を持ち、科学的かつ客観的な視点で火災調査を行い、地域の安心・安全のために活躍されることを心から願っております。



模擬家屋の消火状況



関係者への聞取り状況



模擬家屋の調査実習の様子



鑑識実習の様子

問合せ先

消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712